総合的な学習の時間第３学年　　坂町立坂中学校

指導者　奥村　健吾
　　林　　晃也

単元名

お互いの命をまもり合おう

本単元で育成する資質・能力　チャレンジする力　表現する力　協力・貢献する力

１　日　時　　令和４年９月 21 日（水）５校時（13：30～14:20）

２　学　年　　３年４組 35 名（男子　16 名、女子 19 名）

３　単元について

（１）単元観

本単元は、「自分たちが生活している坂地域の課題の解決に向け、地域の方と連携しながら活動することを通して、地域の一員としての自覚や誇りをもち、自らの生き方について考え、行動しようとする。」ことを目標に設定している。

本校は、総合的な学習の時間で第１学年から系統的に地域学習に取り組んでおり、平成 27 年度からは第３学年で「防災」をテーマに学びを深めている。そのような中、平成 30 年７月の西日本豪雨により被災し、本町では災害関連死を含め 20 名の方が犠牲となった。小学校５年生の時に身をもって経験した豪雨災害は、生徒にとって身近で必然性のある課題であり、防災・減災について考える本単元は、自らが問いをもち課題の解決に向けて主体的に活動することのできる単元となっている。

また、探究のプロセスを学ぶとともに、友だちと協力して課題を解決する力や、自己の生き方を考え、積極的に社会に参画しようとする態度を養う上で、本単元は大変重要であると考えている。

（２）生徒観

本学年の生徒は、総合的な学習の時間に限らず、どの授業においても前向きに授業に参加している。授業を大切に受けようとする風土が育っており、与えられた課題について試行錯誤しながら熱心に取り組んでいる。ペアや班の活動を仕組むと、積極的に意見を出し合う姿があり、他の生徒と協力して活動することも自然とできる。これまで、総合的な学習の時間では、タブレットを活用しながら必要となる情報を集めたり、調べたことをまとめたりするなどの活動を充実させてきた。しかし、コロナ禍の影響もあり、コロナ禍以前に比べて地域に出て学びを深めたり、地域を巻き込んで探究の活動を進めたりしていく機会が少なくなっている。コロナ禍以前は、地域の行事である水産祭りに参加し、漁協と協力して、地域のためにできることを考え、実践していく探究活動等があったが、ここ２年間は実施できていない。また、与えられた課題に対して熱心に取り組むものの、自らが問いをもち、主体的に課題を設定することに苦手意識をもっている生徒は多い。本単元が始まる前に実施した「課題発見・解決学習」に関わるアンケート結果は次のようになっている。

質問項目	肯定的に回答した生徒の割合
授業では、課題を解決するために、進んで資料を集めたり取材をしたりしています。	61.5%
授業では、友だちと話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしています。	89.6%
授業では、調べたことなどを、図、グラフ、表などにまとめています。	50.0%
授業では、解決しようとする課題について、「なぜだろう」「やってみたい」と思って取り組んでいます。	75.4%
学習の振り返りをする時には、「もっと考えてみたいこと」「もっと調べてみたいこと」などを考えています。	72.4%

（３）指導観

指導にあたっては、主体的な学びの質をより高め、生徒一人一人が思考し続けることのできる授業とするべくＰＢＬ（プロジェクト型学習）を実践する。単元のゴールイメージを「中学生の私たちがふるさと坂のためにできることは何か考え、行動・発信することができる」とし、解が１つでない課題を扱い、発展性のあるプロジェクトとなるようにする。プロジェクトの達成に向け、各探究活動が連鎖しながらより深い学びにつながるように、探究活動Ⅰ・Ⅱ・Ⅲをスパイラルに設定した。探究活動Ⅰでは、防災・減災についての理解を深めるとともに、自己の見方や考え方の深まりを自覚させる。探究活動Ⅱでは、追悼集会の企画・運営、全校生徒に向けたメッセージを作成することを通して、新たな課題意識をもたせるようにする。そして、探究活動Ⅲでは、中学生の私たちだからできるという視点をもって、これまでの学びをもとに、ふるさと坂のためにできることを考え、その実現のために外部に発信する活動を仕組む。

学習全体を通して、グループ学習を充実させ、他の生徒の意見に触れることで、より多面的・多角的に物事を考えられる力を身に付けさせたい。また、調査活動では、一人１台タブレットを活用して調べ、まとめる活動を確保するとともに、坂町環境防災課や地域包括支援センター、自衛隊などの立場の違う外部講師を招聘する。探究の過程を繰り返すことで、生徒が自分の大切な人のため、また、地域のために役立つことを考え行動できるようにしていきたい。生徒の主体的な学びとなるよう、生徒にとって必然性がある課題とすること、できるだけ生徒に意思決定させること、運営等を生徒に任せること等を重視した学習展開とする。

４　単元の目標

自分たちが生活している坂地域の課題の解決に向け、地域の方と連携しながら活動することを通して、地域の一員としての自覚や誇りをもち、自らの生き方について考え、行動しようとする。

坂中学校区として系統的に育成を目指す資質・能力の具体の姿	
チャレンジする力 【挑戦】 【粘り強さ】 【解決力】	・ふるさと坂について自分たちが知っていることや経験したことと、新たに学習したこととのズレを通して、自らが解決したい課題をもち、解決に向けて果敢に挑戦している。 ・課題解決に向け主体的に取り組む中、試行錯誤しながらあきらめず取り組んでいる。
表現する力 【自分】 【目的・相手・場面】 【工夫】	・ふるさと坂の防災について自分で考えたこと、グループで考えたことを、目的や相手、場面に応じて、内容や方法、表現の仕方などを工夫しながら伝えることができる。 ・コロナ禍だからこその ICT の価値に気付き、ICT を効果的に活用して、自分たちの考えや思いを表現することができる。
協力・貢献する力 【役割】 【行動力】 【感謝】	・学校や家庭、地域の中での役割を自覚し、皆と協力して、ふるさと坂の課題を解決するために行動している。 ・ふるさと坂の防災のために、地域の一員として、また中学生として、どのようなことができるのかを考え、行動している。

5　単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	①災害に強いまちづくりを実現していくためには、そこに存在する多様な問題の解決に向けて人や組織と目的を共有して取り組むことが必要であることを理解している。 ②タブレットを効果的に活用し、防災に関する必要な情報を短い時間にたくさん収集することができる。 ③坂町の防災に関する状況と自分たちの生活との関わりを理解し、地域のために行動しようとしていることは、探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。	①既習知識と新たな学びの中からズレを感じ、坂町の防災における問題を明らかにし、解決への見通しをもって計画している。 ②災害に強いまちづくりの実現に向けて、必要となる情報を多様な方法の中から効果的に選択している。 ③収集した情報や体験した情報をもとに、災害に強いまちづくりにむけて自分たちができることを整理しながら解決に向けて考えている。 ④発表やプレゼンテーションの際、目的や相手、場面に応じて、内容や方法、表現の仕方などを工夫しながら伝えることができる。	①学びと自分の生活を関連付けて、自分の意思で探究的な活動に取り組もうとしている。 ②課題解決に向け主体的に取り組む中、試行錯誤しながらあきらめず取り組んでいる。 ③学校や家庭、地域の中での役割を自覚し、皆と協力して、ふるさと坂の課題を解決するために考え、行動している。

6　他教科等との関連

国語科	社会科	理科	技術・家庭科	保健体育科
「間違いやすい敬語」 「編集して伝えよう」 「観察・分析して論じよう」 「目的や相手に応じて説明しよう」	「自然災害と防災への取組」 「多様な環境と環境保全の取組」 「持続可能な社会に向けて」	「天気とその変化」 「大地の変化」 「自然の恵みと災害」	「未来の技術についてレポートを作成しよう」	「傷害の防止について」

7　指導と評価の計画（35 時間　本時　28／35 時間）

探究の過程	時間	主な学習内容	知	思	態	評価方法
探究活動Ⅰ 課題設定 情報収集 整理・分析 まとめ・創造・表現	14	○坂町のよいところ、課題について付箋に書いてグループで共有する。（もの、ひと、ことの観点、グルーピング）			①	授業観察 付箋紙
		○坂町のホームページを使って、坂町の今年度の重点課題を調べる。 ○坂町の令和３年度の歳出予算と令和４年度の歳出予算を比べて、気付いたことを交流し、坂町の防災・減災について自分事として考える。				
		○坂町の令和元年度と令和４年度の災害復旧費を比べ、大幅に減っている理由を交流し、こうした状況の中で、どんな防災対策が必要かを考える。		①		授業観察 ワークシート
		○防災学習プリントを使って、防災に関する基本的な知識を得る。	①			学習プリント

		○前時の学習を振り返って、ふるさと坂と関連付けながら、もう少し詳しく調べてみたいことについて話し合う。 ○グループで調べたいテーマを決め、調べた内容をタブレットを使ってスライドにまとめ、各学級で発表する。 （例）・集中豪雨 ・南海トラフ地震 ・自衛隊の災害時の活動 ・坂町地域包括支援センター ・坂町ハザードマップ ・防災グッズ ・梅雨 ・西日本豪雨の坂の被害状況　　など ○他者評価をもとに、発表を振り返る。 ○自衛隊の出前授業で、講話や共助器具の試作等の体験を行い、学びを深める。 ○講話や体験を振り返って、分かったこと、考えたことなど自己の学びを表現する。	② ② ① 	② ③ ④ 	② ③	授業観察 授業観察 スライド 発表会 生徒の感想 授業観察 アンケート 振り返り
探究活動Ⅱ 課題設定 情報収集 整理・分析	7	○西日本豪雨の被災者の体験談を聞く。 ○坂町ＨＰの「復旧・復興に関する動画」を視聴する。 ○探究活動Ⅰの学びを振り返り、全校生徒へ伝えたい「防災に向けたメッセージ」を作成する。 ○西日本豪雨災害追悼集会は、７月６日１校時に全校オンラインで実施する。 ○追悼集会を企画・運営する。 ○追悼集会で、「防災に向けたメッセージ」を全校生徒に発信する。 ○坂町地域包括支援センターの方から、西日本豪雨災害について振り返る講話を聞く。 ○探究活動Ⅰ・Ⅱをもとに、防災学習での学びを外部に発信する方法や手段について考える。	② ① 	① ② ③ ④ 	② ③	授業観察 授業観察 生徒作品 生徒発表 授業観察 ふりかえり アンケート ふりかえり
課題設定 情報収集 整理・分析	14	○坂町環境防災課の方から坂町の取組、課題について知り、中学生の私たちだからできることについて考える。 ○Google Forms を使って、情報を収集する方法を知るとともに、アンケートを作成し、坂町内の小中学校で調査を行い、実態を把握する。	① 	① ②	①	授業観察 付箋紙 授業観察

		○防災・減災に関わる坂町の取組についての理解を深める。 ○情報収集をもとに、テーマを決め、これまでの学びを外部に発信する方法を考える。（誰に対して、どこで、どのような方法で　等） （例） ・地域の方に、「飲料水の備蓄」を呼びかける動画を作成する。 ・小学生に、防災マップを紹介するパワーポイントを作成する。 ・防災に関するクイズを作って、坂中ＨＰに掲載する。 ○構想案をゲストティーチャーに発表、意見交換を行い、構想案を再考する。（研究授業）		③	③	企画書 授業観察
		○見直した構想案をもとに、資料や動画を作成し、外部に発信する。		③		授業観察 振り返り
		○他の中学校と防災に関わるオンライン交流会を実施する。		④	②	構想案 生徒作品
		○本単元を貫くテーマ「ふるさと坂のために、中学生の私たちができること」に対する自分の考えや思いを書く。	③	④		授業観察 振り返り ワークシート

８　パフォーマンス課題【本時】

ゲストティーチャーの話をもとに、これまでの学びを外部に発信する方法を再考し、他者と協力しながら、構想案をよりよいもの・より具体的なものに見直すことができる。

９　ルーブリック（評価基準）【本時】

	評価基準
Ⅲ	ゲストティーチャーの話をもとに、一人一人が地域の防災に貢献できることを自覚しながら、外部への発信方法を整理・分析し、よりよい発信方法・より具体的な発信方法になるように、構想案を再考することができる。
Ⅱ	ゲストティーチャーの話をもとに、自分たちが考えた外部への発信方法を整理・分析（比較して考えたり、関連付けて考えたりするなど）し、構想案を再考することができる。
Ⅰ	ゲストティーチャーの話をもとに、構想案を再考することができる。

10　本時の学習

（１）本時の目標

・ゲストティーチャーの話をもとに、地域の防災の視点から、自分たちが考えた構想案を再考する。

・これまでの学びを外部に発信するために考えた構想案を様々なゲストティーチャーに表現する。

（２）本時の展開（本時　28／35）

	学習活動	指導上の留意事項	資質・能力 （評価方法）
導入	1　本時のめあてと、授業の流れを確認する。（５分） めあて：ゲストティーチャーの話を聞き、構想案を再考することができる		
展開	2　これまでの学びを外部に発信する方法をまとめた構想案を、各班が発表する。（10 分）	・拡大印刷した構想シートを使って構想案の説明を行う。 ・各班の発表は２分以内とする。	
	3　ゲストティーチャーの講話を聞く。 ・地域包括支援センター木下さん ・防災士木村さん ・坂町環境防災課大田さん （大田さんは事前に講話をしていただいているため、この日の講話は割愛する。）（10 分）	・ゲストティーチャーと事前連携を行い、講話の中で次のことに触れていただくようにする。 〇防災の輪を広げていくために、中学生が担う役割や地域からの期待が大きいこと。 〇７月に行われた追悼集会で、生徒が自主的に会を運営したり、他学年にメッセージを伝えたりしている姿が素晴らしかったこと。	
	4　ゲストティーチャーの話をうけて、各班で構想案を再考する。 （15 分）	・拡大印刷した構想シートに、構想案を再考し、修正・追加した内容を色マジックで書き加える。 ・ゲストティーチャーに机間巡視をしてもらい、生徒の質問に答えてもらったり、アドバイスをしてもらったりする。	〇収集した情報やゲストティーチャーの話をもとに、自分たちができることを整理・分析しながら、構想案を再考することができている。 （班活動）
	（例） 目標　日本は災害の多い国なので，いざ災害が起こった時に，避難所にもっていける「持ち出し用防災グッズ」と，ライフラインが止まった時の「自宅避難用の防災グッズ」を家に準備できようにする。 外部への発信【具体化】 誰に：地域の方々 お年寄りの方々 何を：防災グッズを準備することの重要性 どのように：防災グッズの必要性を紹介する動画を作成し，お年寄りが集まる集会で，その動画を見てもらう。 現状 防災グッズ（防災バック）を準備している家庭が少ない。 西日本豪雨のとき，断水になって大変だった。		
	5　色マジックで追加・修正を書き加えた構想シートを全体で発表する。（５分）	・残り時間を考えて、発表する班の数を調整する。	

まとめ	6　まとめ・振り返りを行う。 （５分） ・生徒代表によるお礼のことば ・担当の先生よりまとめ	・班で取り組んだ構想案の整理・分析について、自分の言葉でワークシートにまとめさせる。	○収集した情報やゲストティーチャーの話をもとに、自分たちができることを整理・分析しながら、構想案を再考することができている。 （ワークシートへの記述）

11　準備物

ワークシート、模造紙（めあて・学習のながれ）、拡大印刷した構想シート、色マジック

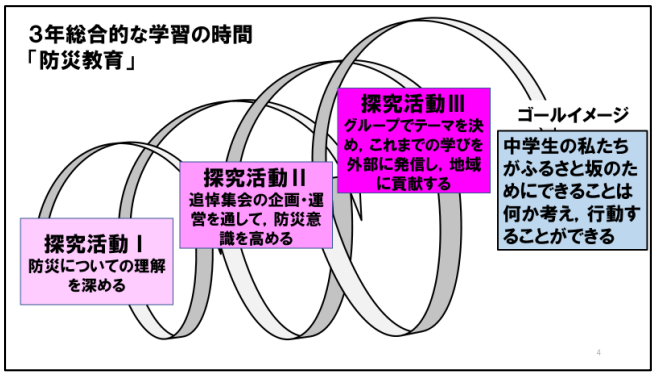
12　実践記録（研究授業を中心に）

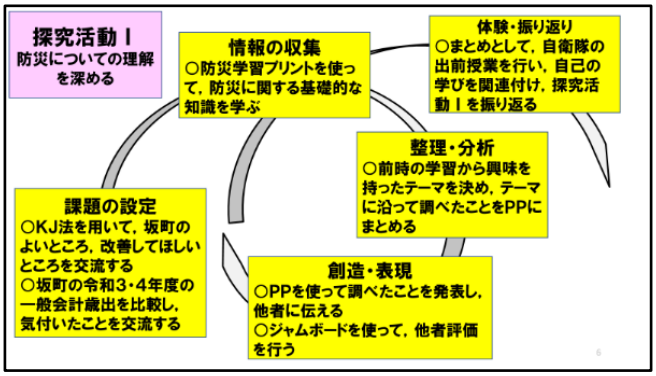
(1)

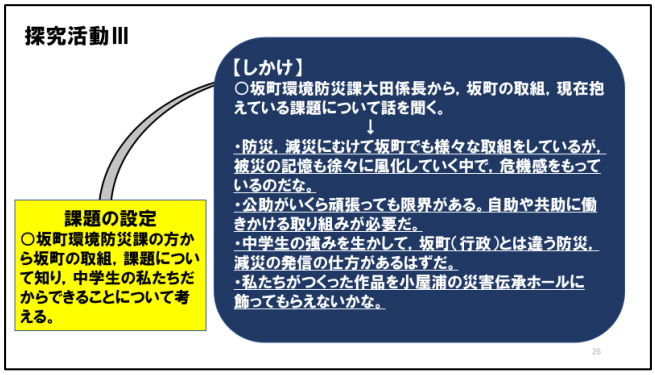
研究授業に向けたゲストティーチャーとの事前連携

・ゲストティーチャーの講話が，本単元のねらいに迫るものとなるように事前連携を行った。本単元の目標，研究授業におけるねらい，これまでの学習の取組，生徒が考えている構想案など多様な事柄について連携した。その際，よりよい連携となるように，これまでの学習の取組をまとめたパワーポイントや，講話で話してもらいたい内容をまとめたプリントを担当者が作成し，防災に関わるゲストティーチャーの思いや考えとのすり合わせを行った。各ゲストティーチャーとの連携は１時間を超えるものとなったが，十分に時間をかけて連携を行うことで，本単元のねらいにせまるような講話をしていただくことができた。

○これまでの学習の取組をまとめたパワーポイント（抜粋）







○内容をまとめたプリント

【ゲストティーチャーからの話の中で，触れていただきたいこと】

○各班の構想案の発表を聞いて，感想や質問をしていただければと思います（１つずつの班に聞いていただいても，全体の班に向けて問いかけていただいてもどちらでも構いません)。また，構想案が具体的でないと思われた班については，踏み込んで聞いていただければと思います。(５Ｗ１Ｈなど)

【可能なら触れていただきたいこと】

○発信方法として，「チラシ・ポスターをつくって発信する」，「スライドを作って説明する」と考えている班が多い状況です。ポスターなら簡単にできると安易に考えている班もあります。本時の授業で，構想案を再度練り直したり，深めたりする機会として，次のような話（案）をしていただければ，大変ありがたいです。

「アンケートにもあるように，多くの人がこれまでに防災に関するチラシやポスターを見たことがあると思います。国や県など多くの自治体で，防災をよびかける冊子，チラシ，ポスターをつくっています。中学生のみんながチラシやポスターを作るなら，それらとの違いがないと，わざわざつくる必要はないのではないかと思います。どんなチラシ・ポスターをつくりたいと思っていますか。」

・・・

(2) 研究授業について

	学習活動	授業や生徒の様子
導入	1　本時のめあて、授業の流れの確認	・本時のめあて，授業の流れを確認した後，ゲストティーチャー３人の紹介を行った。３人のうち２人は，これまでもゲストティーチャーとして来ていただき，生徒と関りがあったため，自然と授業に入ることができた。
展開	2　各班からの発表	・各班の代表者が，これまでの学びを外部に発信するための構想案を発表した。構想シート(模造紙)にある「現状（どのような課題があるのか）」「目標（ふるさと坂のためにこんなことがしたい）」「外部へ発信（そのために外部へどのような発信をしたいか）」の流れに沿って，ゲストティーチャーに向けてしっかりと考えを提案することができた。
	3　ゲストティーチャーの講話	・事前連携でお願いした内容に触れながら，ゲストティーチャーから講話していただいた。

・各ゲストティーチャーの講話内容

〇木村さん

「生徒が地域の方と顔見知りになり，いざというときに声をかけることのできる関係を築いていくことも，外部への発信です。食料を備蓄する時，２つ準備しておいて，１つを食べたら，また補充するといった用意をすることが，防災グッズの考えで必要だと思います。」

〇木下さん

「防災を呼びかけるポスターや動画はたくさんあると思いますが，みなさんが作ろうとしているポスターや動画はどう違うのですか。誰に対して発信しようとしているのか，町民だけなのか，外国の方はどうなのか，耳や目が不自由な方はどうなのか考えてほしい。また，発信する相手に対して，発信方法を考える必要があります。高齢の方にＳＮＳを使って発信することは難しいです。」

〇大田さん

「みなさんは外部に発信しようと取り組んでおられますが，先日の台風でみなさんは避難をされましたか。周りに避難してくださいと発信していくことも大事ですが，自分も避難し，命を守る必要があるのです。自分事として考えてほしい。」

・生徒はゲストティーチャーの話をしっかり聞いていたが，メモをとっている生徒が数名であった。事前に，メモをとるように生徒へ指示をしておくべきだった。

４　構想案の再考

・ゲストティーチャーの講話を受けて，各班が構想案の見直しを行った。ゲスト―ティーチャーが班の話し合いに入って，質問や意見を行い，班での話し合いを深めることができた。

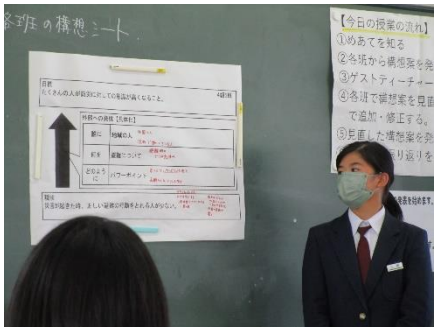
＜ある班での話し合いの様子＞

ＧＴ「全世代に伝えるとあるけど，広すぎて発信する方法が決まらないのではないかな。もっと世代を絞って具体的にしたほうがいいと思いますよ。」

生徒「インターネットを使って，どの世代が火災の被害にあってるか調べてみよう。」

生徒「火災が発生する家に住んでいるのは，80 歳代が多かった。でも，働く世代も考えないといけないから，対象を 20～80 歳にしよう。」

生徒「60～80 歳の人に，動画をＳＮＳで見てもらうことは難しいと聞いたので，別の方法を考えないといけないなぁ。」

	5　全体で交流	・構想案の再考で，見直したり，具体化したりした内容を色ペンで書きこんだ模造紙を使って，２つの班が代表して全体に発表することができた。 
まとめ	6　まとめ・振り返り	・生徒の振り返りを一部抜粋 自分たちの班の意見をまとめた構想案は完璧だと思っていたけど，木下さんに「誰に」のところをもっと具体的にしたらよい，伝え方を世代ごとに変えた方がよいとアドバイスをうけたことが一番印象に残りました。 木村さんがおっしゃっていた高齢の方へ日頃から挨拶をするだけでも，だんだんと交流が深まり，この子が言うならと避難のきっかけになることを知り，新しい考えを持つことができました。 一度は高まった防災意識も，時間が経つと低くなってしまう。防災について私たちが伝えた時，継続して取り組んでもらえるようなものをつくっていきたいと思いました。また，私たちが「まず取り組む」を前提に，外部に発信していきたいと思います。